室町時代に美濃、尾張、伊勢を治めた土岐氏の最後の拠点、大桑城。土岐氏は、2020年大河ドラマの主人公である明智光秀の本流であり、大桑城は、光秀が仕えた斎藤道三が土岐氏を追い落とした舞台となるなど、光秀とも縁のある城として注目を集めています。今回、よりたくさんの人に大桑城を訪れてもらうため、大桑城を紹介する登山マップを作成しましたので、その一部を紹介します。

問生涯学習課　TEL 22-6845

プロローグ

表紙には、大桑城山頂から見る朝日の写真を使用し、山頂からの眺望や、雄大な歴史を伝えます。

室町時代から戦国時代にかけて200余年にわたり美濃国を中心に勢力をふるった守護土岐氏は、天文4年（1535）、長良川の洪水をきっかけに、山県市大桑（おおが）地区に守護所（守護の居館）を移し、大桑城や城下町を整備しました。

大桑城はその後、斎藤道三に攻め入られて落城し、守護土岐頼芸は美濃を追放されました。大桑城は、守護土岐氏の最後の居館となったのです。

大桑城が築かれた古城山に足を踏み入れると、今なお残る遺構から、要害堅固な山城であったことを感じることができます。そして、山頂から広大な濃尾平野を望むとき――かつてこの地を支配した一族の興亡に思いを馳せることができるでしょう。

山県市には、土岐支流の代表的な武将である明智光秀の「生誕の地」の伝承も残っています。若き光秀も仰いだであろう山城、大桑城は、美濃をめぐる激動の歴史を今に伝えています。

発行／山県市教育委員会 Tel.0581-22-6845
本マップは平成30年度岐阜県清流の国ぎふ推進補助金を受けています。

二 大桑城解説

土岐氏や大桑城の関わりや歴史、特徴などを分かりやすくまとめました。岐阜市近辺からのアクセスマップも掲載しているので、遠方からの登山者にも安心です。

守護土岐氏と大桑城

土岐氏は清和源氏の流れをくむ、美濃を地盤とした武士の一族です。室町時代初期には、足利尊氏などの信頼を得て美濃、尾張、伊勢の三ヵ国の守護に任命され、その後は戦国時代にかけて美濃国守護を務めました。

天文4年（1535）、長良川で大洪水が起こり、枝広（現在の岐阜市長良）にあった守護所（守護の居館）が水災により廃絶したことに伴い、大桑に守護所が移され、大桑城や城下町が整備されていったと考えられます。

しかし、守護土岐氏と斎藤道三の戦いが始まり、大桑は戦場と化しました。天文21年（1552）、ついに大桑城は落城し、土岐氏最後の守護・頼芸は美濃から追放されます。ここに200余年にわたり続いた土岐氏の美濃国統治は終焉を迎えました。その後、道三は、大桑城下の町人を稲葉山城（後の岐阜城）の城下・井口（いのくち）へ移したと伝えられています。

大桑地区には、現在でも戦国時代をしのばせる史跡などが数多く残っており、大桑城跡は標高407.5mの古城山山頂一帯にあります。

山頂を目指し、古城山登山口からコースをしばらく進むと、門や入場者の監視施設があったとされる番所跡（①）があり、地面を四角く切り出すことで周囲より高くした段や、大きめの石を積み上げた石垣の跡に囲まれています。こうしたつくりは、越前朝倉氏の拠点・一乗谷（現在の福井市）の石垣や庭園の石組みの特徴と類似しており、大桑城が越前国の影響を受けたことをうかがわせます。道中には、ところどころに石垣や、斜面を削り平らに造成した曲輪（くるわ）を確認することができます。曲輪には配置された位置や用途に応じて屋敷・監視所・馬場といったさまざまな建物などが築かれたと考えられています。また、城の周囲の山腹には堀切や竪堀が設けられ、外敵が容易に侵入できないようになっており、大桑城が堅固な守りを誇る山城であったことを物語ります。

城の中心・主郭部（③）には、石碑とともに昭和63年に建てられたミニ大桑城があり、眼下には岐阜城がある金華山まで見渡せる、雄大な景色が広がります。

（　）内、記号はP.30、31「大桑城　古城山歴史・登山マップ」に準ずる

年表　大桑城と守護土岐氏の関わり

西暦	（元号）	事項
1519年	（永正16年）	美濃国守護土岐政房が死去。子の頼武が守護になる
1525年	（大永5年）	この頃から、斎藤道三の父が台頭する
1532年	（天文元年）	頼武が枝広（現在の岐阜市長良）に守護所を置く
1535年	（天文4年）	長良川大洪水で枝広の守護所が水災。大桑城を整備し、守護所を移す
1536年	（天文5年）	頼武の弟・頼芸が守護になる
1542年	（天文11年）	斎藤道三が大桑へ進攻する（「大桑大乱」）
1547年	（天文16年）	頼武の長男・頼純が死去する
1549年	（天文18年）	道三の娘が織田信長に嫁ぐ
1552年	（天文21年）	道三が頼芸を大桑から追放し、守護土岐氏は没落する。道三が稲葉山城下町を整備する

大桑城 古城山 歴史・登山マップ

② 切井戸

古城山腹に位置し、現在も水をたたえている。土岐頼芸が斎藤道三との戦いに敗れ逃げる際、家宝の「金色の鶏」をこの井戸に隠したといわれ、元日の朝にこの井戸から鶏の鳴く声を聞いた者は、長生きできるという言い伝えがある（金鶏伝説）。

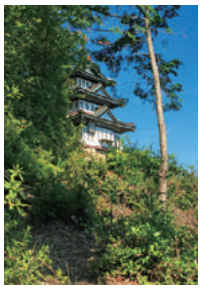
※急斜面にあるため、訪れる際はご注意ください。

③ 主郭部

城内で中心となる曲輪で、近世城郭の天守台にあたる場所。

ミニ大桑城

昭和63年に建てられた高さ約3mの模擬天守閣。
戦国時代には無かった建物だが、写真映えするスポットの1つ。



城山展望台

はじかみ林道より徒歩約5分のところにある。
古城山全体を見渡せるほか、伊吹山や濃尾平野などの眺望を楽しめる。

（C）THE GEOART（登録商標第5140363号）（C）Hokkaido Chizu Co.,Ltd. Agency/Artbank

けんきゃくコース

大桑城の遺構と山歩きを楽しみたい方

けんきゃくコース

山麓の古城山登山口より古城山を登るコースで、大桑城の遺構を見ながら山頂を目指します。ルートの一部に傾斜の急な所があり、距離もあることから、体力に自信のある方におすすめです。

山頂まで
距離 約2.1km　時間 60～90分

ゆったりコース

山頂からの雄大な眺めを気軽に楽しみたい方

ゆったりコース

はじかみ林道の峠にある登山口より古城山を登るコースです。ルートの大半は緩やかで、距離も長くないことから、古城山山頂からの雄大な眺めを楽しみたい方におすすめです。

山頂まで
距離 約750m　時間 20～30分

三.

大桑城登山MAP

大桑城の2つの登山道を案内します。3Dにすることで、登山道の傾斜や距離、大桑城の構造などを分かりやすく表現しています。大桑城を構成するさまざまな遺構や駐車場の位置などを表示しています。

大桑城歴史・登山マップ

仕様：A3四つ折り　フルカラー
市役所ロビー、各公共施設、四国山香りの森公園、ふれあいバザール、てんこもりなどに設置しています。